

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 22日

中施策事業名	多文化共生推進事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市在住の外国人市民		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市在住の外国人市民に対し、生活に必要な手続きやイベントの情報を提供することで、市及び周辺住民と関わるきっかけを持つことができている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・豊明市国際交流協会支援事業 ・多文化共生施策懇話会の開催及び多文化共生計画の推進 ・外国語版広報の作成・配布 ・シェパトン市との交流事業 ・ポルトガル語通訳の配置及び関係課との調整 ・多言語対応の三者間通話による電話通訳 ・各課から依頼の翻訳物依頼 ・会計年度任用職員に関すること ・日本語ボランティア養成講座		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
外国語版広報の取得率	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	80	80	80	0	0	0
	実績値	82	82				
単位	%						
日本語教室の参加者	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	350	350	350	0	0	0
	実績値	275	222				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				10,074千円	13,215千円	
	a 事業費合計			10,074千円	13,215千円	13,920千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計			0千円
② 補助金等 (収入)				3,840千円	4,350千円	5,000千円
③ コスト (①－②)				6,234千円	8,865千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				91 円	129 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>外国語版広報は4ヶ国語で各施設・各店舗で定期配布し活用されている。日本語教室については、外国人人口が年々増加していること、コロナ禍の状況が緩和してきていることからニーズは増えていると考えられるが、昨年度に比べ実績が少し伸び悩んだ。各課の外国人対応（ポルトガル語及びベトナム語の窓口通訳、3者間通話、タブレット翻訳等）の利用状況を検証し、適切な利用を促進した。令和6年度より配置されたベトナム語通訳は窓口に見えるベトナム人のニーズを満たし更なる適切な対応に貢献した。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	<p>外国語通訳による複合的なニーズに対応することで多様化する問題、困りごとの解決を促進、また対応状況やニーズの把握に努める。またベトナム語通訳や3者間通話の周知方法として外国人キーパーソンや広報等により周知し、利用促進を図る。</p> <p>多文化共生推進計画の見直し及び、豊明市地域共生社会推進指針への統合を行う。</p>	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	<p>新たなキーパーソンの発掘を行い、外国人市民が孤立し取り残されないように多国籍化への対応に備える。</p> <p>また豊明市地域共生社会推進指針への統合のための計画策定を行う。</p>	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 21日

中施策事業名	区・町内会活動支援事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	区・町内会等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	区・町内会の実情や特性にあった財政支援を受けられ、地区交流拠点の新設、交流機会の充実を図ることが可能となっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 区長会・区長連合会 ・ 区一括交付金・正副区長報償 ・ コミュニティ助成事業 ・ 集会所改修等補助金（借上事業含む） ・ 町内会等配布物（回覧・全戸配布） ・ 地縁団体の登録、変更手続き及び証明書交付 ・ 土木工事認定委員会		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
地区交流拠点の年間設置箇所数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	1	1	1	0	0	0
	実績値	1	1				
単位	箇所						
集会所改修等補助の件数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	5	15	15	0	0	0
	実績値	13	10				
単位	箇所						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				68,867千円	68,033千円	
	a 事業費合計			68,867千円	68,033千円	71,353千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
	② 補助金等 (収入)				5,000千円	2,500千円
③ コスト (①－②)				63,867千円	65,533千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				928 円	952 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	B 地区交流拠点の共生交流プラザ「カラット」では、尾三消防と協力し地域住民も巻き込む防災訓練や、区町内会の交流の場として活用されている。また就労の延長などの理由により区や町内会等の担い手が不足しているため、環境改善に向けた相談支援が必要である。
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	区へ依頼する提出書類のさらなる簡素化に向けて引き続き関係各課と調整する。会議体や回覧範囲等、デジタル化対応のニーズが少しずつ増えているため、対応可能な地域からできる範囲で相談支援を行っていく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	区の役員への負担軽減について、引き続き関係各課と調整する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 21日

中施策事業名	L G B T 事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができています		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市民及び職員		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	L（レズビアン・女性同性愛者）G（ゲイ・男性同性愛者）B（バイセクシュアル・両性愛者）T（トランスジェンダー・生まれたときの性別にとらわれずに生きたい）その他、多様な性についての理解が進んでいる		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・理解促進研修会の開催 ・他自治体との意見交換会 		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
L G B T 理解促進 のための研修会	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	8	8	8	0	0	0
	実績値	4	4				
	単位 回						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
	単位						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				319千円	308千円	
	a 事業費合計			319千円	308千円	220千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等（収入）				0千円	0千円	0千円
③ コスト（①－②）				319千円	308千円	
市民一人あたりコスト (③÷市の人口(評価対象年度末時点))				5 円	4 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>高校（2校）、中学校（1校）、市役所新人職員（1回）の協力を得て年4回実施し、合計1,180名の方に参加いただきました。研修会のアンケートではLGBTという言葉の認知度はかなり高いという結果が出ており、関心の高さが伺える。研修後は、困っていたら味方になりたいと回答する割合が高くなっており、研修の効果として理解から行動への変化が期待できる。また県内自治体間連携及びパートナーシップ制度自治体間連携ネットワークの協定を結んだため利用者が利用しやすい環境構築に努めた。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	啓発パンフレット等の資料を作成し、あらゆる機会に配布し啓発を行う。また、当事者にとって積極的な広報周知を好まない傾向にあるため、他市町との意見交換や関係団体から当事者の声を取り入れ、環境整備に努める。また、転出入をした場合にスムーズな対応ができる愛知県内自治体間連携及びパートナーシップ制度自治体間連携ネットワークの協定を結んだため周知を行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	中学校、高校での研修会が定着しつつあるため、引き続き継続する。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 20日

中施策事業名	共生交流プラザ管理運営事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	15 誰もが身近に寄り合える場所があり、地域の人と支え合いながら孤立することなく暮らすことができている		
②大施策	身近に寄り合える場所をつくり、地域で支え合える環境をつくる		
③中施策	多様な人が交流する機会を充実させ、地域での人と人とのつながりをつくる		
④中施策事業の対象	市民、地域の多様な主体		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市民や地域の多様な主体が交流し、世代や分野を超えてつながる場所となっている。この場所で、市民一人ひとりの生きがいを、地域とともに創っていく地域共生社会の実現を目指す。		
⑥中施策事業を構成する事務事業(手段)	・ 豊明市共生交流プラザ管理運営事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
来館者数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	55,000	60,000	65,000	0	0	0
	実績値	323,157	337,220				
単位	人						
	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	0	0	0	0	0	0
	実績値	0	0				
単位							

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和05年度	令和06年度	令和07年度	
① 総事業費 (a+b)				60,358千円	101,286千円		
	a 事業費合計			60,358千円	101,286千円	60,808千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)			60,358千円	101,286千円			
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				877 円	1,472 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	目標達成	○	A
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>興味関心から始まる多様な主体の利用が拡大し、高齢分野の介護予防につながる活動や、子育て世代や子どもの居場所としての活動、学習やデザイン、音楽活動等の多くの活動が実施されている。さらには企業や協同組合の活動や多様な方の居場所づくりも新たに活動の幅が増えている。そのため少し困難を抱えた方にとって、新たな出会いや発見が生まれ、地域共生社会のさらなる実現に向けた運用に努めた。また体育館の冷房空調工事とひろばのインターロッキング化工事も完了し、利用環境が向上した。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	興味関心から始まる多様な主体の利用を促進し、少し困難を抱えた方にとって、新たな出会いや発見が生まれるよう、地域共生社会のさらなる実現に向けた運用方法の改善を図る。またガバメントクラウドファンディングや企業版ふるさと納税の活用、企業とのビジネスプランといった新たな協力体制によるさらなる施設活用の方法を検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	利用状況や利用者の声を確認しながら、地域共生社会のさらなる実現に向けた運用方法の改善を図る。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 24日

中施策事業名	豊明夏・秋まつり支援事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	21 市民が豊明の歴史・伝統・文化に誇りを持ち、次世代が継承し創造している		
②大施策	とよあけの歴史・伝統・文化に誇りを持ち、継承・創造できる環境をつくる		
③中施策	市内外の人がとよあけの魅力を楽しめる環境をつくる		
④中施策事業の対象	市民、市外の人及び実行委員会		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	豊明市の風物詩である夏まつり及び秋まつりを多くの人に体感してもらうことにより、実行委員としてまつりの企画・運営に携わる人材の増加・育成につながっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 豊明夏まつり実行委員会事務 ・ 豊明秋まつり実行委員会事務		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
豊明秋まつり来場者数(延べ)	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	20,000	20,000	20,000	0	0	0
	実績値	25,000	20,000				
	単位 人						
豊明夏まつり来場者数(延べ)	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	52,000	52,000	52,000	0	0	0
	実績値	25,000	30,000				
	単位 人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				7,000千円	8,500千円	
	a 事業費合計			7,000千円	8,500千円	8,500千円
	人 件 費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一 般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				7,000千円	8,500千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				102 円	124 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>コロナ禍では縮小開催していた豊明夏まつりは2日間開催に戻し、大勢の市民の方から好評を得ている。豊明秋まつりでは、共生交流プラザで3回目の開催となり、前日祭の開催や直行バスにより多くの出店や協力が集まったが、前日祭については天気が悪く来場者が伸びなかった。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	夏まつりについては、物価高騰による花火や警備費等への負担軽減方法を調整する。また実行委員会による出店や会場での寄付を募る等、収益を上げる方法を検討する。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	まつり継続に向けた、適切な実施方法について実行委員会と引き続き協議をする。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 6月 20日

中施策事業名	友好自治体交流事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	31 豊明市に魅力があふれ、「通過するまち」から、「足を運んでいただけるまち」になっている		
②大施策	とよあけの魅力を高め、訪れる人を増やす		
③中施策	とよあけの魅力を発信する		
④中施策事業の対象	市民・市民団体等		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	上松町・豊根村に市民や団体が訪問することによって交流が生まれ、人々に豊明市の魅力を伝えることができています。友好都市交流事業は、お互いの市民及び職員を派遣・受入交流し、お互いの文化を伝え、学ぶことができています。		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 豊根村との交流事業 ・ 上松町との交流事業		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
上松町交流事業参加者数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	40	40	40	0	0	0
	実績値	0	26				
	単位 人						
豊根村温泉施設利用者	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	1,500	1,500	1,500	0	0	0
	実績値	507	417				
	単位 人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				265千円	538千円	
	a 事業費合計			265千円	538千円	654千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
		人件費合計			0千円	0千円
② 補助金等 (収入)				0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)				265千円	538千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				4 円	8 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	あまり達成できていない	×	C
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	指標の内容を見直す必要がある	△	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>コロナ禍も落ち着き、都市間交流の実施が少しずつ活発になってきているが、豊根村温泉施設の施設受入時間等の減少により利用者は減少している。上松町との交流は上松町が開催するウォーキングイベントに市民の方が参加する場を設け、新型コロナウイルス感染症以降の久々の交流を行い、参加者からは好評であった。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	上松町との事業については、参加者より好評であったため、今後も上松町と連携を図りイベントに参加する。豊根村との事業は共生交流プラザ「カラット」で好評のイベント活動等を現地の交流イベントと開催できないか協議していく。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	友好自治体と今後の交流事業の実施内容に向けて、引き続き検討を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 28日

中施策事業名	市民活動支援事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	34 若い世代も地域で活動し、地域の自治力が高まっている		
②大施策	若い世代が地域活動で活躍し、地域の自治力を高める		
③中施策	世代を超えて連携し、地域の問題を自ら解決する環境をつくる		
④中施策事業の対象	市内地域社会活動団体に所属している人		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	市内各団体が自立し相互に支え合いながら地域活動の一角を担っている。		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	協働推進委員会開催、協働推進計画推進・市民活動保険、アダプトプログラム推進・市民提案型まちづくり事業交付金 ・情報サイト運営、備品、公用車貸出		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
市民提案型交付金の採択事業数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	13	21	21	0	0	0
	実績値	13	16				
単位	事業						
地域の活動に参加している若者の割合 ※	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	76.5	76.5	79.4	79.4	0	0
	実績値	53.9	54.2				
単位	人						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額
				令和05年度	令和06年度	令和07年度
① 総事業費 (a+b)				7,619千円	6,070千円	
	a 事業費合計			7,619千円	6,070千円	12,051千円
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人	
			b 金額	0千円	0千円	
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人	
			金額	0千円	0千円	
			人件費合計		0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)				140千円
③ コスト (①－②)				7,479千円	5,930千円	
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				109 円	86 円	

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	ある程度貢献できた	△	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	おおむね計画通り	△	B

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>市民提案型事業については、コロナ禍も落ち着き、新規提案や昨年に続く事業提案が増加した。共生交流プラザ「カラット」において高齢者や子育て団体を始め、多様な世代が利用しているため、市民参画しやすい環境が構築されはじめ、新たなつながりや事業が生まれやすくなっている。</p>
-----------------------------	--

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	市民活動情報等の周知方法を見直し、多くの通いの場や活動を情報化し、社会資源にアクセスしやすい利用環境を目指す。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	令和7年度までの計画期間である協働推進計画を指針として見直し、男女共同参画、多文化共生計画を統合した計画策定を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等

中施策評価書

作成日 令和07年 4月 21日

中施策事業名	男女共同参画推進事業	部課名	市民生活部・共生社会課
		作成者	松本 小牧
①めざすまちの姿	36 女性が職場や地域で活躍し続けている		
②大施策	女性が職場や地域で活躍し続けられる環境をつくる		
③中施策	職場や地域において女性の活躍の場を増やす		
④中施策事業の対象	市内在住・在勤の女性		
⑤中施策事業の意図 (対象をどのようにしたいですか)	女性の社会生活活動やグループ活動への参加のきっかけづくりや子育て中の女性が自分のために使える時間（学習時間）の提供を目的とした講座を実施することで、様々な年代の女性が、自分らしい生き方を選択できる第一歩となっている		
⑥中施策事業を構成する 事務事業(手段)	・ 男女共同参画懇話会の開催及び施策の企画推進 ・ 男女共同参画講座の企画及び開催 ・ 男女共同参画推進担当職員に関すること		

■評価指標

中・長期成果に対する目標達成状況							
講座参加満足度（アンケート調査）	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	100	100	100	0	0	0
	実績値	100	100				
	単位 %						
男女共同参画チラシ配布箇所数	事業実施年度	令和05年度	令和06年度	令和07年度	令和08年度	令和09年度	令和10年度
	目標値	3	3	3	0	0	0
	実績値	2	2				
	単位 箇所						

※のついた指標はまちづくり指標に同じ

■コスト

事業実施年度				決算額	決算額	予算額	
				令和05年度	令和06年度	令和07年度	
① 総事業費 (a+b)				357千円	380千円		
	a 事業費合計			357千円	380千円	100千円	
	人件費	正規職員	人数	0 人	0 人		
			b 金額	0千円	0千円		
		非常勤一般職員等 (事業費に含む)	人数	0 人	0 人		
			金額	0千円	0千円		
			人件費合計			0千円	0千円
		② 補助金等 (収入)			0千円	0千円	0千円
③ コスト (①－②)			357千円	380千円			
市民一人あたりコスト (③／市の人口(評価対象年度末時点))				5 円	6 円		

■評価

評価項目	内容	評価結果		
(1) 有効性	成果指標は目標値を達成していますか	ほぼ達成	△	B
	大施策に貢献していますか	貢献できた	○	
	重点をおく指標は妥当でしたか	妥当であった	○	
(2) 妥当性	中施策実現に向けて、事務事業はそれぞれの役割を果たしていますか (事業の役割が重複していませんか)	期待された役割を果たしている	○	A
	自治体が関与するのは妥当ですか	妥当であった	○	
(3) 効率性	評価指標達成に対する予算規模・単位コストは適正ですか	適正であった	△	B
(4) 進捗状況	中施策事業は計画通りに進んでいますか	計画より進んでいる、計画通り	○	A

■総合評価

上記までの評価指標、コスト、各項目評価の観点からの分析	<p>B</p> <p>男女共同参画講座では、共生交流プラザにて市民大学ひまわりとの共催講座（5講座、参加者数48名）やDV講座（高校2校、718人）を開催し、質の高い講座を実施することで満足度も非常に高く好評を得ている。また、他課の開催するイベント時にイベント内容に関連した啓発チラシを直接配布することで多くの方に興味をもっていただけた。子ども向けリーフレットも夏休みの親子イベント等で配布し、啓発に努めた。</p>
-----------------------------	---

■改善案の検討

現年度に実施可能な改善・調整事項	豊明市男女共同参画計画の見直し及び、豊明市地域共生社会推進指針への統合を行う。	
翌年度以降に実施可能な改善・調整事項	豊明市地域共生社会推進指針への統合のための計画策定を行う。	
今後、改善・拡大する事業	事業名	内容、理由、時期等
今後、実施すべき新規事業	事業名(仮称)	内容、理由、時期等
今後、休廃止する事業	事業名	内容、理由、時期等